

「尿による腎疾患診断に関する研究」のお知らせとお願い

医療技術のめざましい発展にもかかわらず、各種の腎疾患から末期腎不全に陥り、透析や腎移植を必要とする患者さんの数は、全世界的に増えつづけ、医療経済的にも重大な問題となってきました。このような状況のもと、各種腎疾患から腎不全への進行を防止するより良い治療を行うために正確な診断法の開発が強く求められています。現在、腎疾患治療法の最終判断は主に腎生検にゆだねられていますが、腎生検は侵襲的な検査であり、しかも200万個といわれる糸球体のわずか10個前後の形態から全体を予測する方法自体に限界も指摘されています。一方、尿は腎臓全体の状況を反映して変化する可能性から腎疾患の診断・予後判定上の有用性が考えられますが十分な検討がされていないため、未だに予後判定や治療法の選定には腎生検が必須の検査です。そこで、当科では、診断のため腎生検が必要であった患者さんの尿を用いた研究を計画しております。具体的には、入院時に採取した尿検体を遠心し沈渣と上清成分を分離し、それらの各成分を解析し疾患との関連を評価していきます。

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投棄をしたりすることはなく、これまでの入院中の既存試料のみを用いる後方視的研究です。

患者さんの臨床データはID等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。また、昭和61年11月から平成25年5月31日までに、防衛医科大学校病院で腎生検を施行された方で、ご自分の臨床データや採取組織（当院において検査された結果、腎組織、尿検体）を研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院腎臓内科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

防衛医科大学校病院腎臓内科

連絡先：埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校 内科学（1）

電話：04-2995-1511（内線：2971）

研究担当医師：内科学（1） 山本 浩仁郎